

射水みなとまちづくり方策



平成26年3月

富山県射水市

は じ め に

「あゆの風 いたく吹くらし 奈呉の海人の 釣する小舟 漕ぎ隠る見ゆ」（強い東風が吹いているらしい。奈呉の海人の釣りする小舟が、波の間に漕いでいるのが見え隠れしている。）

万葉の時代、越中（富山県）国司としてこの地に赴任した万葉歌人大伴家持は、こよなく愛した風光明媚な「奈呉の浦」の歌を万葉集の中で残しています。この地の風景は、現在、国際拠点港湾伏木富山港（新湊地区）を背景に東西両埋立地を繋ぐ新湊大橋が開通し、県内外からの多くの来訪者でにぎわっています。また、海王丸パークが「恋人の聖地」に選定され、カップルのデートスポットや結婚式の場としても注目を集めるなど、大きく変貌を遂げています。

さらに、富山県では「世界で最も美しい湾クラブ」加盟に向けた取り組みを進めており、今年3月に富山湾のクラブ加盟内定を受けました。来年春には、県民待望の北陸新幹線が開通し、秋には全国豊かな海づくり大会が本市をメイン会場に開催されることなどから、射水市が新しいステージに向けて、さらなる発展を遂げる絶好の機会と捉えています。

そのためには、ベイエリアを中心とした射水の魅力を全国に発信し、地域イメージの向上と交流人口の増加により、活性化を図る必要があります。

このたび、新湊大橋の開通や社会経済情勢の変化等に対応するため、「新湊みなとまちづくり方策」を「射水みなとまちづくり方策」として見直しました。

今後は、この方策をベイエリアにおける未利用地の利活用と、その周辺市街地との連携による、新しい「みなとまちづくり」の指針としてまいります。

この方策の見直しをまとめるに当たりまして、短い期間の中で、ご熱心にご協議を賜りました射水みなとまちづくり戦略会議委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただきました関係の皆様に対し、心から敬意と感謝を申し上げます。

平成26年3月

射水市長 夏 野 元 志

目 次

1	射水みなとまちづくり方策策定の趣旨	1
2	現況	3
2-1	新湊地区の現況	3
2-2	内川周辺の現況	6
2-3	バイエリア西地区・東地区の現況	7
2-4	新湊大橋完成による効果	8
3	上位計画	9
3-1	総合計画における射水バイエリア	9
3-2	都市計画マスタープランにおける射水バイエリア	10
4	バイエリアの土地利用活用方策	11
4-1	共通テーマ	11
4-2	土地利用の方向性	12
4-3	土地利用活用方策	13
5	バイエリアと内川周辺との連携方策	16
5-1	連携の方向性	16
5-2	バイエリアと内川周辺との連携方策	18
6	射水みなとまちづくり方策	19
7	方策の実現化に向けて	23
7-1	実現化に向けた考慮事項	23
7-2	実現化の方針	25

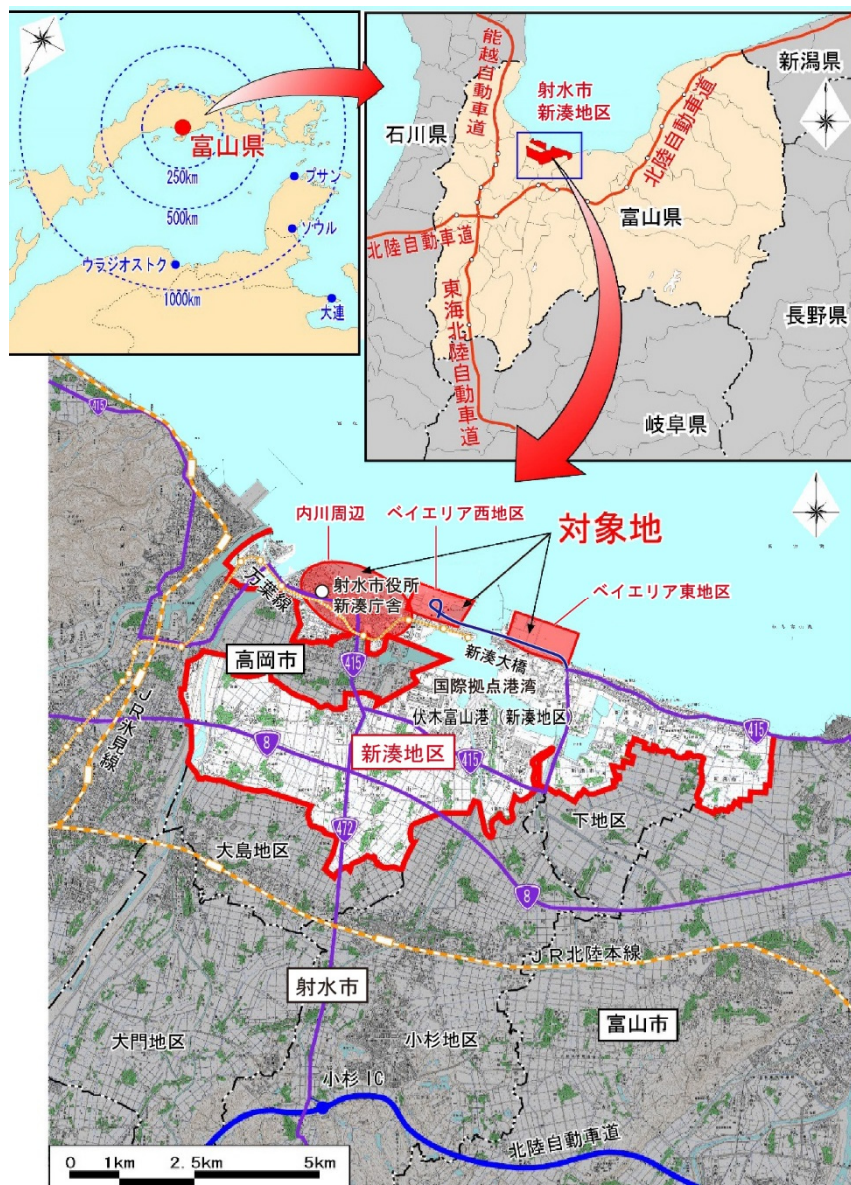
1 射水みなとまちづくり方策策定の趣旨

射水市臨海部に位置する富山新港東西両埋立地（ベイエリア西地区・東地区）では、これまで、年間 100 万人の集客を誇る海王丸パークをはじめとした各種施設が整備されてきたほか、平成 24 年秋には、新湊大橋が供用開始し、多くの来訪者を迎えている。

日本海側最大級の規模を誇る新湊大橋が完成したことにより、この地域に物流、交通、観光など、多岐の方面に計り知れない影響を与えている。

射水市では、この大橋の完成を地域活性化のための大きなチャンスであると捉え、周辺の未利用地の活用と、新湊地区市街地と東西両埋立地＝両ベイエリアとの連携による地域活性化の方策について検討し、みなとを中心とした新しいまちづくりの指針として、ここに「新湊みなとまちづくり方策」（旧方策）を見直し「射水みなとまちづくり方策」（新方策）を策定するものである。

なお、見直しの基本は、旧方策の第 1 段階及び第 2 段階の方策を基本にしながら、①土地利用が違う目的で使われているところ、②時代の変化で意義が無くなったもの、ニーズのないもの、③提案された方策が完了しているものについては削除し、射水みなとまちづくり戦略会議委員からの新たな意見を新規に追加することとした。



対象地域位置図

定義

旧方策で対象地区を「海王町」としていた地区を拡大して新湊大橋から西側の旧漁港までの区域を「ベイエリア西地区」として方策を検討する。同じく旧方策で「海竜町」としていた地区を新湊大橋から東側の海老江海浜公園までの区域とし「ベイエリア東地区」とする。また、「中心市街地」としていたものを「内川周辺」とする。

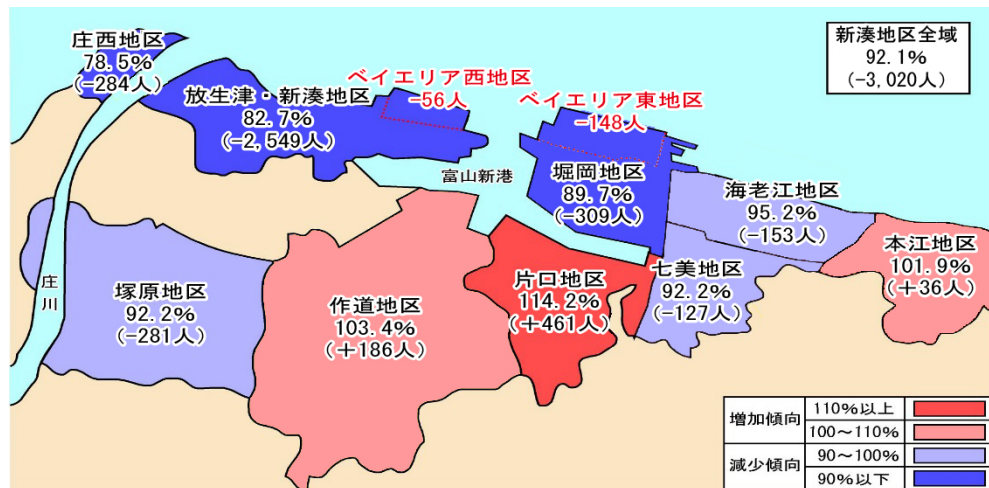
また、「ベイエリア西地区」と「ベイエリア東地区」を合わせた、臨海部を「射水ベイエリア」と称し、「内川周辺」も包含しながらPRすることとする。

2 現況

2-1 新湊地区の現況

(1) 人口

- 人口は 35,053 人（H26.1）であり、昭和 29 年をピークに減少傾向にあり、特に内川周辺では著しく人口が減少している。
- 平成 26 年における高齢人口（65 歳以上）の割合は 29.6%（H16.1 は 23.0%）、年少人口（15 歳未満）の割合は 12.2%（H16.1 は 13.7%）と少子高齢化が進行している。



新湊地区の人口増減

射水市全域

94,978人 98.7%

(-1,204人)

小杉地区	大門地区	大島地区	下地区
33,688人 101.8%	13,209人 103.4%	11,018人 109.0%	2,010人 94.7%
(+582人)	(+433人)	(+914人)	(-113人)

過去10年間（H16.1-H26.1）の地区別人口推移 ※H16.1の人口を100%とした割合及び増減

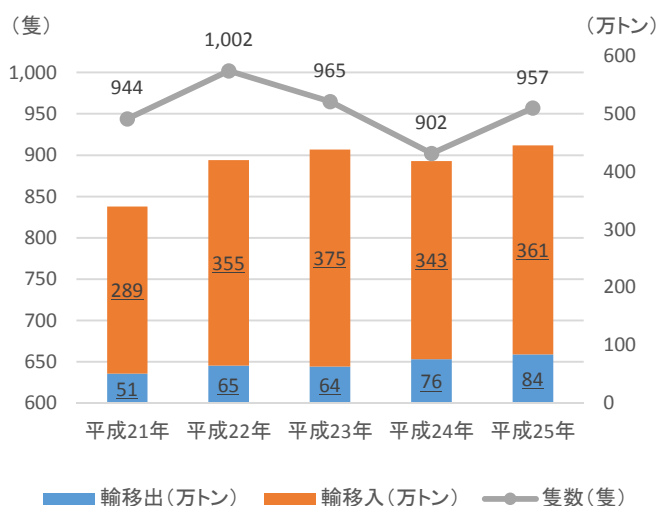
人口は外国人を含む

ベイエリア西地区・東地区はそれぞれの地区の内数

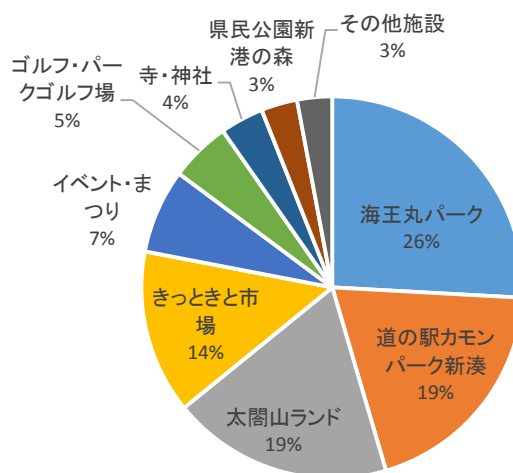
資料：住民基本台帳、外国人登録資料（なお、大島・下のH16.1の外国人データなし、下はH15.10と比較）

(2) 産業

- ・ 事業所数及び従業者数は減少傾向にある。
- ・ 漁業が盛んで、新湊漁港で水揚げされる魚種は日本有数であり、豊富な水産資源を背景に市場では1日2回のセリが行われている。
- ・ 国際拠点港湾である伏木富山港新湊地区（富山新港）は環日本海諸国との貿易が盛んであり、年間約440万トンの貨物が取り扱われている。
- ・ 富山新港の背後地には臨海工業地帯があり、アルミや木材などを扱う多くの企業が立地している。
- ・ 観光入込客数は年間約270万人であるが、その約8割が県内からの入込客であり、97%が日帰りの入込客である。
- ・ 海王丸パーク周辺には市内への観光入込客の約4割を占める年間約100万人が訪れている。



富山新港の入港隻数と輸移出入の推移
資料：富山県港湾課



施設・イベント別の観光入込客数の割合 (H25)
資料：観光入込調査

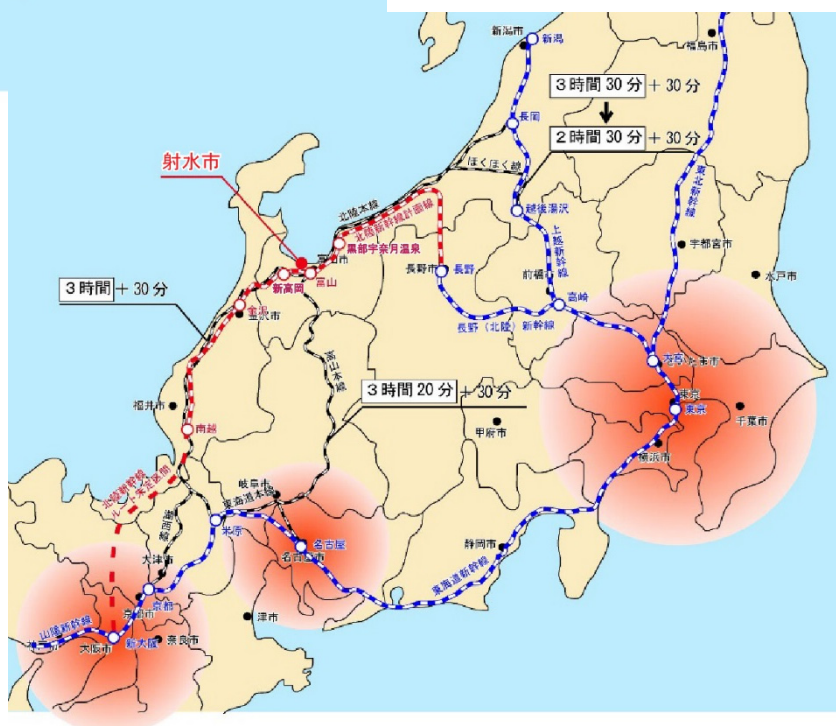
(3) 交通

- ・ 南北の幹線道路として国道 472 号があり、国道 8 号と北陸自動車道小杉 IC を連絡している。
- ・ 国道 8 号や北陸自動車道小杉 IC からバイエリアへのアクセスは良好であるが、内川周辺の道路は細街路が多い。
- ・ JR 高岡駅と連絡する路面電車「万葉線」が通っているほか、全域を網羅するコミュニティバスが運行されている。
- ・ 平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業により、首都圏との時間距離が短縮される。
- ・ 新湊大橋の車道部が平成 24 年 9 月に、歩道部「あいの風プロムナード」が平成 25 年 6 月に開通し、東西のバイエリアが繋がった。

高速道路による 3 大都市圏との連絡

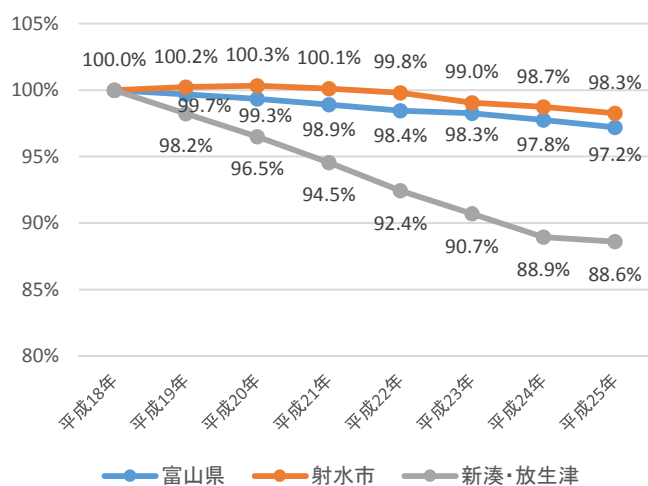


鉄道による 3 大都市圏との連絡



2-2 内川周辺の現況

- ・ 商店街における歩行者交通量や店舗数が減少し、空き家が増えてきている。
- ・ 新湊曳山祭りを中心に、年間約9万人余の観光入込がある。
- ・ 内川周辺は古くから栄えたまちであり、神社仏閣や史跡が多く点在している。
- ・ 市街地を東西に流れる内川は、市民の暮らしと営みの場であると同時に、瓦葺きの日本家屋が整然と立ち並ぶ、かつての日本の港町風情を感じられる数少ない場所として、広く注目を集めている。
- ・ 新湊漁港に水揚げされる豊富で新鮮な水産資源を背景に、内川周辺を中心に多くの割烹・寿司店などの飲食店がある。



内川周辺の人口推移

資料：富山県人口移動調査（各年4月1日現在）



（放生津八幡宮）



（内川）

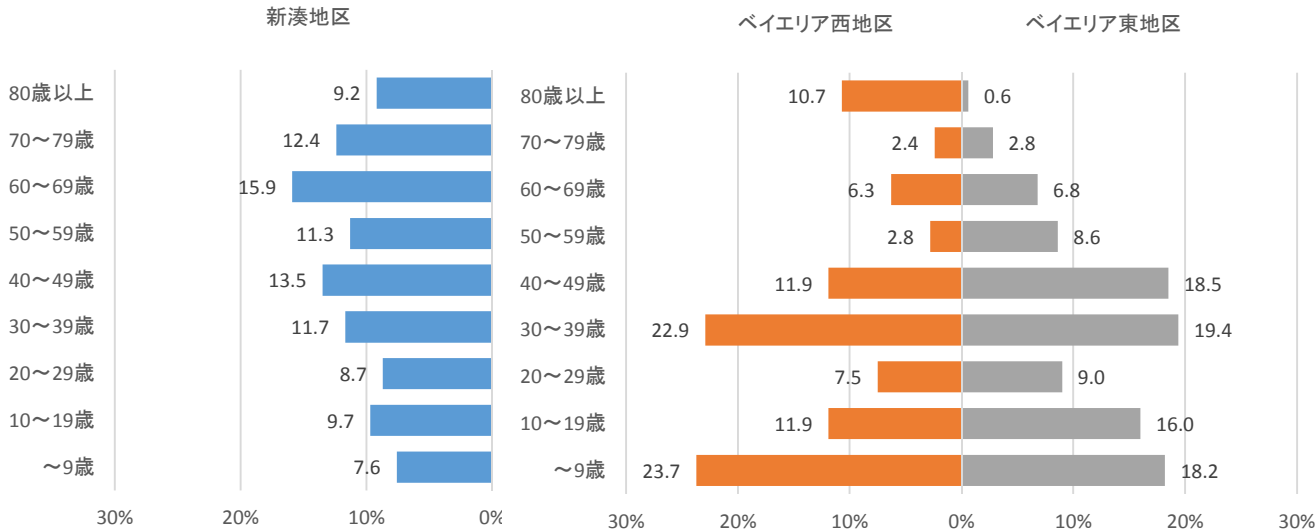
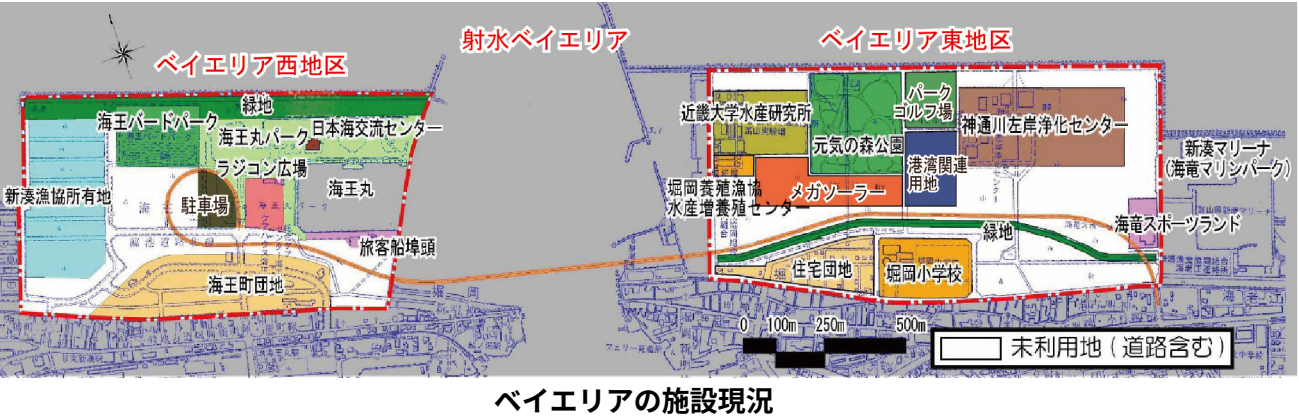


（放生津曳山）

内川周辺の歴史文化資源

2-3 バイエリア西地区・東地区の現況

- ・ バイエリア西地区・東地区では、これまで海王丸パーク、元気の森公園、太陽光発電など各種施設整備や環境整備がされてきたが、まだ未利用地が残っている。
- ・ 一方、新たな住宅の供給が行われており、比較的若年層の人口が増加する傾向にある。併せて、都市計画地区計画を変更しバイエリア西地区において単独店舗の進出が可能となった。
- ・ 平成24年9月に、東西のバイエリアを結ぶ新湊大橋が供用開始した。



バイエリア西地区・東地区の年齢階層別人口構成

2-4 新湊大橋完成による効果

- ・ 新湊大橋完成により多くの効果が生じている。東西両埋立地の通行ばかりでなく、その景観から県内を代表するランドマークとなり、絶え間なく観光客が来訪している。
- ・ 海王丸パークの入込数は、年間約 100 万人に上り、新湊大橋開通前より約 20 万人余の増加を見ている。併せて、新湊大橋が繋ぐバイエリア西地区とバイエリア東地区を結ぶ県営渡船の乗船者数もプロムナード開通直後は前年比約 2 倍となった。
- ・ また、平成 25 年に第 15 回を迎えた海王丸ロードレースは、新湊大橋の供用を記念して橋を渡るコースとなり、参加者数も対前年の約 2 倍 1700 人を記録した。
- ・ このほかにも、トライアスロン大会として利用されたほか、特に北陸新幹線が開業する 2015 年開催の高岡～富山間、富山マラソンのコースにも組み込まれており（参加者 1 万人を見込む）、県外ランナー等への PR がなされている。
- ・ 新湊大橋に関する問い合わせが各地の旅行会社等からあり、他県の観光バスや旅行会社の大型バスが何台も連ねて来訪し、周辺の観光・飲食施設では、関東・関西・中部からの県外客が増加している。

3 上位計画

3-1 総合計画（平成26年策定）における射水ベイエリア

総合計画においては、「みなとまちづくり方策の推進」として、新湊大橋の完成に伴い来訪者が増加しているベイエリア西地区・東地区の一体的な開発と貴重な観光・歴史資源が残されている内川周辺とを連携し、周辺相互の活性化を図ることとしている。

（以下、射水市総合計画 第4部「潤いのある安心して暮らせるまち」 第2章「快適で利便性の高いまちづくり」 第2節「港湾機能の整備促進とみなとまちづくり」中の【施策の内容】第3「みなとまちづくり方策の推進」を抜粋）

1 景観を重視したベイエリア西地区・東地区の新たなまちづくりとにぎわいの創出

（1）特色あるレジャー・娯楽サービス等の提供

- ア 新鮮で種類が豊富な魚介類の提供
- イ 水辺空間の活用や憩いの空間の創出
- ウ 既存施設の機能拡充
- エ 東西埋立地（ベイエリア西地区・東地区）への宿泊施設、温泉施設、飲食店等の滞在型施設の誘致
- オ 大型商業施設や結婚式場等の誘致による交流人口の増加

（2）健康で心癒される市民生活を支援する機能を集積

- ア パークゴルフ等日常的にできる軽スポーツ施設や冬期間も利用できるフットサル、バスケットボールコート等の屋内施設等を備えた憩いの空間の提供

（3）海洋や環境に関する研究機能の集積や研究機関との連携

- ア 環境面での先導的地域を目指すための研究推進
- イ 海洋水産技術に関する研究の推進及び実用化
- ウ 景観を重視した緑豊かで良好な街並み形成のための施策の展開

2 東西埋立地と内川周辺とを連携

（1）新湊地区市街地の資源活用による集客力の向上や東西埋立地との連携強化

- ア 来訪者が東西埋立地で駐車し、公共交通機関で市街地へ向かう誘導の促進
- イ 東西埋立地と市街地を結び広がる観光情報等の提供
- ウ 東西埋立地と市街地を結ぶ公共交通機関の充実

3-2 都市計画マスタープラン（平成22年3月策定）における射水ベイエリア

この方策で規定しているベイエリア西地区及び内川周辺の将来像は「潤い環境を活かした、風情と賑わいのある“みなと”のまち」として

- ①水辺空間などの活用による、人々が憩い集える魅力的なまちづくり、
- ②にぎわいあふれる活力ある地域づくり、
- ③災害に強い、安全・安心な地域づくり

を推進することとしている。具体的には、

- ・ 住居地区の一般住宅地において、身近な公園整備などにより居住環境の向上を図り、海岸沿いの密集住宅地ではまちの風情を残しつつ、安全で安心できる居住環境の充実に努める。海王町団地では、集合住宅やケアハウスの整備促進を図る。
- ・ 既存商店街では、空き店舗活用による店舗の充実や歩道整備による回遊性向上、共通駐車場の整備による利便性向上などを図り、観光・散策の場を形成する。
- ・ レクリエーション地区として、ベイエリア西地区では、海王丸パークに物販施設や温泉施設などを誘致しレジャー・観光の核として、また、富山新港周辺施設、富山湾、内川を巡る水上遊覧の拠点としての機能充実に努める。
- ・ また、新湊大橋供用後はベイエリア西地区・東地区が一体となった、一大レクリエーション・観光地点として、さらなる機能の充実および利用促進・交流促進を積極的に進める。

としている。

この方策で規定しているベイエリア東地区の将来像は、「新湊大橋が運ぶにぎわい・交流のまち」として

- ①人・もの・情報の交流が盛んなまちづくり、
- ②富山新港を活用した、活気あふれるまちづくり、
- ③周辺環境と調和した、快適で安全な住みよいまちづくり

を推進することとしている。具体的には、

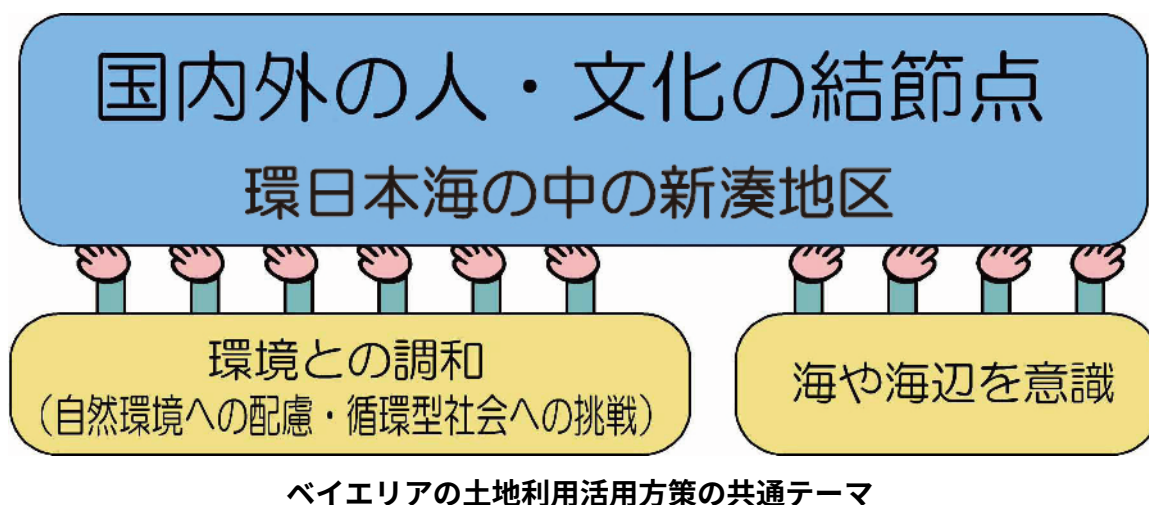
- ・ ベイエリア東地区においては、戸建住宅の整備を促進し、地域北部の海岸沿いの美しい景観の保全・形成を図る。
- ・ レクリエーション地区として、ベイエリア東地区では、新湊マリーナ・海竜スポーツランド・海老江海浜公園などの施設の活用を図るとともに、元気の森公園の整備促進などにより、レジャーやマリンスポーツが充実したレクリエーションの拠点としての機能充実に努める。
- ・ また、新湊大橋供用後はベイエリア西地区・東地区が一体となった、一大レクリエーション・観光拠点として、さらなる機能の充実および利用促進・交流促進を積極的に進める。

としている。

4 バイエリアの土地利用活用方策

4-1 共通テーマ

バイエリアの土地利用活用方策に関する共通テーマを以下のとおり設定する。



①環境との調和や②海及び海辺への意識を土台に、③バイエリアの特長を活かし、環日本海の中の射水という視点から、国内外の人・文化の結節点の形成を図る。

① 環境との調和

- ・ これまでの内川周辺に不足していた緑やゆとり空間を十分に取り込み、自然環境に配慮した快適で心癒されるまちの形成を図る。

② 海及び海辺への意識

- ・ 新湊地区の発展の礎となった海や港といった水辺空間を最大限に活かしたまちの形成を図る。

③ バイエリアの特長

- ・ 射水みなとまちづくり方策策定に当たり、活かすべきバイエリアの特長は以下のとおりである。

既存の中核的資源及び特長

〔景観・環境〕

- ・ 海や港といった水辺空間と新湊大橋
- ・ 海のロマンを喚起させる帆船海王丸
- ・ 内川周辺における観光・歴史的資源（内川の風景や特色のある橋、神社仏閣など）

〔水産資源・食文化〕

- ・ 新鮮で種類が豊富な水産資源を利用した食文化（寿司・割烹など）

〔公共交通機関〕

- ・ 万葉線とコミュニティバスで充実した公共交通

積極的活用・展開が期待される資源及び特長

- ・ 環日本海諸国との交流

4-2 土地利用の方向性

(1) 土地利用の方向性

既存施設を含む周辺地域の状況や我々を取り巻く社会の情勢を踏まえ、バイエリア西地区・バイエリア東地区の土地利用の方向性を以下のとおり設定する。

<バイエリア西地区の土地利用の方向性>

^{にぎ}賑わいのある交流空間

レジャー・娯楽などについて特色あるサービスを提供し、国内外に「射水」を発信するための拠点として、^{にぎ}賑わいのある交流空間の形成を目指す。

<バイエリア東地区の土地利用の方向性>

近未来を考えた高質空間と^{にぎ}賑わいのある交流空間

持続可能な資源循環型社会の実現に向け、海洋や環境に関する研究機能の集積を図るとともに、健康的で心癒される市民生活を支援するレクリエーション機能に付随する^{にぎ}賑わいのある交流空間を併せ持った近未来を考えた高質空間の形成を目指す。

(2) 土地利用活用方策策定における考慮事項

土地利用活用方策策定に向けて、以下の事項を考慮するものとする。

- ① 内川周辺との連携
- ② 景観を活かした機能配置
- ③ バイエリア東西の連携

① 内川周辺との連携

バイエリア東西が、貴重な観光資源が残されている内川周辺と連携し合うことにより、バイエリア東西への来訪者が内川周辺へ誘導され、結果として射水バイエリア全体の活性化が期待できることから、バイエリア東西と内川周辺との連携を重視した土地利用活用方策を考えるものとする。なお、バイエリア東西において、内川周辺との連携の役割を担う万葉線の路線延伸等が検討されていることから、土地利用活用方策を検討するに当たっては、万葉線の路線延伸に配慮した機能配置を行う必要がある。

② 景観を活かした機能配置

バイエリア東西の魅力の基盤は、帆船海王丸、新湊大橋、そして3000メートル級の山々が連なる立山連峰などが織り成す景観であることから、機能（施設）を配置する際には、これらの景観を活かした機能配置が必要である。また、バイエリア東西における良好な景観の形成に向け、可能な限り多くの緑地を配置するとともに、施設周辺についても積極的な緑化を行い、緑あふれる景観の形成を図る必要がある。

なお、策定した方策の実現については、取り組みの長期化が予想されることから、当面の間、空地となる土地の取扱いについても十分配慮する必要がある。

③ 東西の連携

新湊大橋の完成により、バイエリア東西間の移動が容易になったことから、バイエリア東西が一体となった、一大レクリエーション観光地として、機能の充実と利用・交流促進を積極的に進めなければならない。

4－3 土地利用活用方策

(1) バイエリア西地区の土地利用活用方策

- ◇ 新鮮で種類が豊富な魚介類の提供や新湊大橋などの景観を背景とした集客力の向上
- ◇ 旅客船バースの拡充強化による集客力の向上
- ◇ 公共交通の充実による交通アクセスの向上

① 交通機能

- ・ 内川や新湊大橋などの魅力を活かした新たな交通手段の提供
- ・ 公共交通機関と連携した駐車場の整備（内川周辺への連絡機能の向上を考慮）
- ・ 公共交通機関の利便性向上
- ・ 旅客船バース拡充強化によるクルーズ船や旅客船航路の誘致

② 集客・宿泊滞在機能

- ・ 新湊の新鮮で種類が豊富な魚介類や海辺の環境の提供
- ・ 帆船海王丸や新湊大橋、立山連峰が織り成す景観及び海辺の雰囲気の利用（オープンカフェ、温浴施設、結婚式場、宿泊施設など）
- ・ 環日本海諸国の文化、交流をテーマとした展開
- ・ 漁業との連携（セリ見学通路・夕市など即売場）

③ 情報提供機能

- ・ 観光案内所による新湊大橋、バイエリア東西、内川周辺など地域の情報を提供
- ・ サテライトスタジオの誘致による情報発信

④ 居住機能

- ・ 新湊大橋や公共交通の利便性を活かした集合住宅やケアハウス

⑤ レクリエーション機能

- ・ 水辺空間の活用や憩いの空間の創出
- ・ 既存施設（海王丸パーク）の機能拡充

(2) バイエリア東地区の土地利用活用方策

- ◇ 健康的な生活環境の追求
- ◇ 持続可能な資源循環型社会の実現に向けた取り組み
- ◇ 健康的で心癒される生活環境の提供
- ◇ 持続可能な資源循環型社会の実現に向けた環日本海における拠点形成

① 健康癒し機能

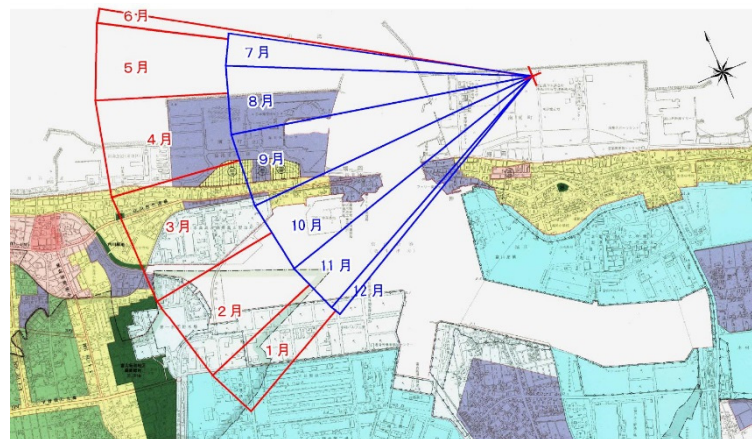
- ・ 市民が日常的に利用するパークゴルフなどの軽スポーツ機能や憩いの空間の拡充
- ・ 市民の健康づくりのための施設（海洋深層水を活用）の提供
- ・ 環日本海諸国の手法を取り入れた健康癒しサービスの提供

② 研究機関との連携機能

- ・ 海洋水産技術に関する研究の推進及び実用化

③ 眺望機能

- ・ あいの風プロムナードからの眺望と併せ、海王丸パーク側からの新湊大橋への眺望とは違った、夕日と海と大橋の眺望を提供し、親しまれるようにする。



眺望点から見た日没の位置

④ 集客機能

- ・ マリンカフェなどによる誘客・飲食施設の誘致
- ・ 多目的広場、ドックラン、フットサル場など整備

⑤ 体験型宿泊施設

- ・ 漁業体験やマリンレジャーが楽しめる体験型宿泊施設の整備

(3) 遊休地の土地利用活用方策

東西のベイエリアに残る多くの未利用地には雑草が繁茂し、景観・環境上問題があるため、現在その対策が求められている。しかし、これらの未利用地を短期間で利活用することは困難であり、今後、土地利用が進む過程においても当面の間、遊休地として残る箇所も残存すると考えられる。

そのため、このような遊休地の利用活用方策について、以下のとおり提案する。

① 適切な管理と活用

遊休地となる箇所については、雑草の繁茂や廃棄物の不法投棄を防止するなど、適切な維持管理を行うものとする。

また、ベイエリアで行われるイベントには多くの来訪者があり、広大な駐車スペースが必要となっている。現在は西側のみで駐車スペースを確保しているが、新湊大橋の完成による東側との時間距離の短縮に伴い、今後は東側に駐車スペースを求めることが可能となる。加えて、暫定的な方策として、市民のコミュニティ活動の場としての活用（市民花壇）も考えられる。

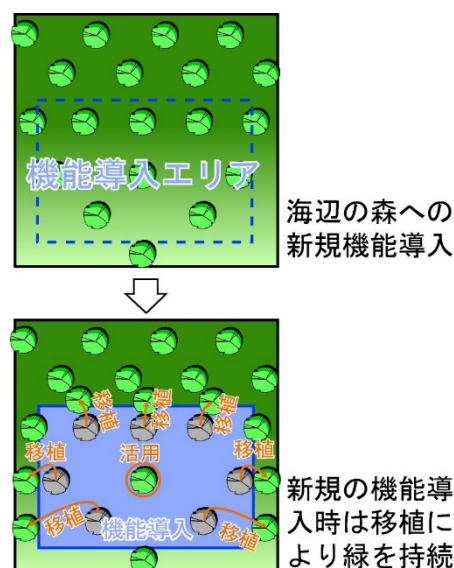
遊休地の方策

- ・ 周辺環境の悪化を防ぐ適切な管理
- ・ イベント開催時の臨時駐車スペースとしての活用
- ・ 市民のコミュニティ活動の場としての活用（花壇づくりなど）

② 海辺の森づくり

本方策では両地区の土地利用の土台として“環境との調和”を位置付けており、その一環として、遊休地に海辺の森を形成するものとする。海辺の森は、緑のボリュームに、地被（芝生など）－疎林－自然林といった変化を持たせることで良好な環境を創出し、海王町と海王バードパークと海竜町の元気の森公園の二つの「緑の核」と一体となり、心癒される空間や市民の健康づくりのための空間を形成するものである。

また、植栽地に、他の機能の導入を図る場合には、樹木を移植するなど、一定量の緑地を確保するための配慮が必要である。なお、新湊大橋沿線については、大橋への景観を良好に保つため、海辺の森を積極的に配置することとする。



5 バイエリアと内川周辺との連携方策

5-1 連携の方向性

(1) 連携の視点

バイエリアと内川周辺との連携を図るため、以下の視点で必要となる事項を整理した。

① 人や情報の連携

平成14年3月策定の「新湊市中心市街地活性化基本計画」及び平成15年3月策定の「新湊TMO構想」で提案された内川周辺の活性化に向けた方策を踏まえ、バイエリアと内川周辺との「人や情報の連携」がスムーズに行われるために必要な事項は次のとおりである。

○ 魅力ある内川周辺のまちづくり及びPR

内川の魅力向上、内川周辺の観光・歴史的資源の掘り起こし、情報発信など

○ 連絡手段の整備による移動抵抗の低減

既存連絡手段（万葉線・コミュニティバスなど）の整備

- ・ 万葉線：路線の延伸に加え、超低床車両アイトラムやドラえもんトラムの魅力を最大限に活かす工夫が必要
- ・ コミュニティバス：増便や新たなルートの検討
- ・ 遊歩道：美しい風景を楽しみながら歩ける遊歩道及び案内誘導設備の整備
- ・ 自動車等の動線整備：駐車場・道路などの整備（バイエリアと内川周辺が一体となったまちの形成）
- ・ 潮風を感じながら移動できるレンタサイクル

共通・企画乗車券の導入

- ・ 多様な乗り物を選択できる楽しさやバイエリア・内川周辺での食事との組み合わせによる魅力をアピール

② 機能の連携

バイエリアと内川周辺に不足している機能を相互に補完し、バイエリアと内川周辺が一体となったまちを形成するために必要となる事項について整理した。

○ バイエリアに求められる機能

内川周辺を訪れる観光客に対する玄関口としての機能

- ・ 内川周辺来訪者の駐車場機能
- ・ 内川周辺の情報提供及び内川周辺への誘導機能

内川周辺のオアシスとしての機能

- ・ 内川周辺に居住、就業する人々の憩いや癒しの場としての機能

○ 内川周辺に求められる機能

バイエリアとは方向性の異なる観光機能

- ・ 内川周辺の風景や古い歴史、文化などを活かした観光・集客機能

バイエリアに少ない都市機能

- ・ 商業や行政によるサービス提供機能

(2) 連携の方向性

新湊大橋の完成に伴う来訪者の増加に鑑み、バイエリアと内川周辺との連携の方向性を以下のとおり設定する。

各地域の資源を活かした 連携による一体的で活力のあるみなとまちの形成

バイエリアと内川周辺にある既存施設や観光・歴史的資源を見直し、それぞれの持つ特長を活かして相互補完することにより、一体的で活力のある地域の形成を図る。

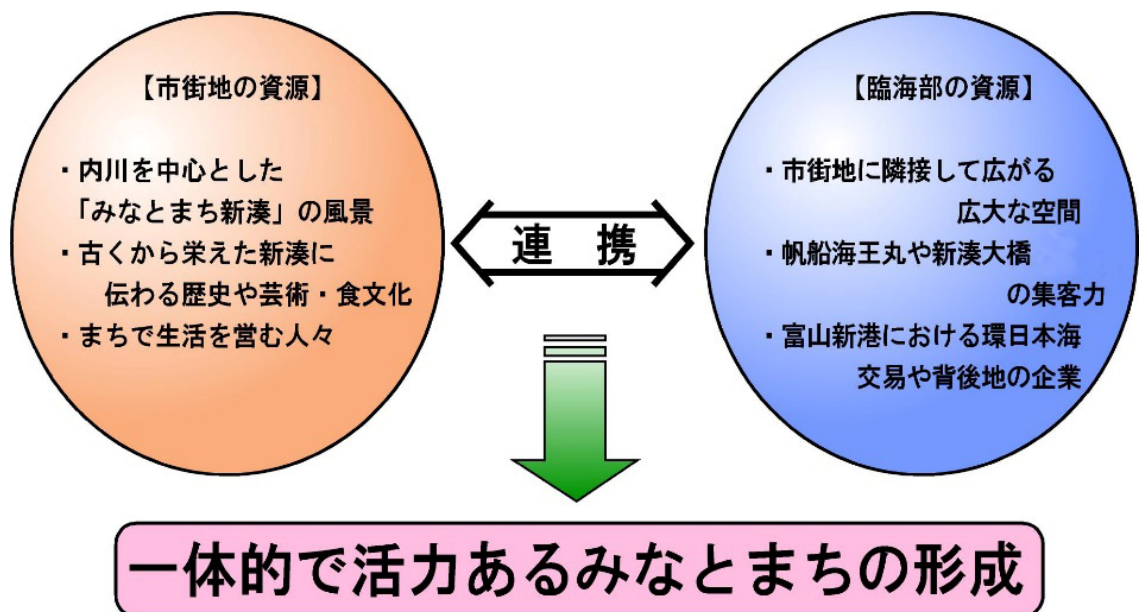
なお、連携方策の策定に当たり、着目する主要な資源の例を以下に挙げる。

① バイエリアの資源

- ・ 内川周辺に隣接して広がる広大な空間
- ・ 帆船海王丸や新湊大橋の集客力
- ・ 富山新港における環日本海交易や背後地の企業

② 内川周辺の資源

- ・ 内川を中心とした“みなとまち”の風景
- ・ 古くから栄えた“みなとまち”に伝わる歴史や芸術、食文化
- ・ “みなとまち”で生活を営む人々



5－2 バイエリアと内川周辺との連携方策

(1) 連携方策の視点

- ◇ 内川の景観を中心とした資源活用による集客力の向上
- ◇ バイエリアと内川周辺との連携し、一体となった活力ある地域の形成

① 集約機能（東西バイエリア地区）

- ・ 内川周辺来訪者の駐車場機能を果たし、公共交通を使い内川周辺へ誘導
- ・ 内川周辺を含めた観光情報などを集中的に提供

② 空間提供機能（東西バイエリア地区）

- ・ 新湊の新鮮で種類が豊富な魚介類や海辺の環境を活かした空間を提供

③ 集客機能（内川周辺地区）

- ・ 内川の魅力や内川周辺の資源を活用
- ・ 内川沿いの街並み整備と新たなサービスの展開

④ サポート機能（内川周辺地区）

- ・ 市民の力をまちづくりに活用
- ・ 高齢者の技術や職人の技をまちづくりに活用

⑤ 連絡機能（両地区）

- ・ 内川周辺と東西バイエリアを連絡する新たな移動手段を提供
- ・ 既存の移動手段の利便性を向上

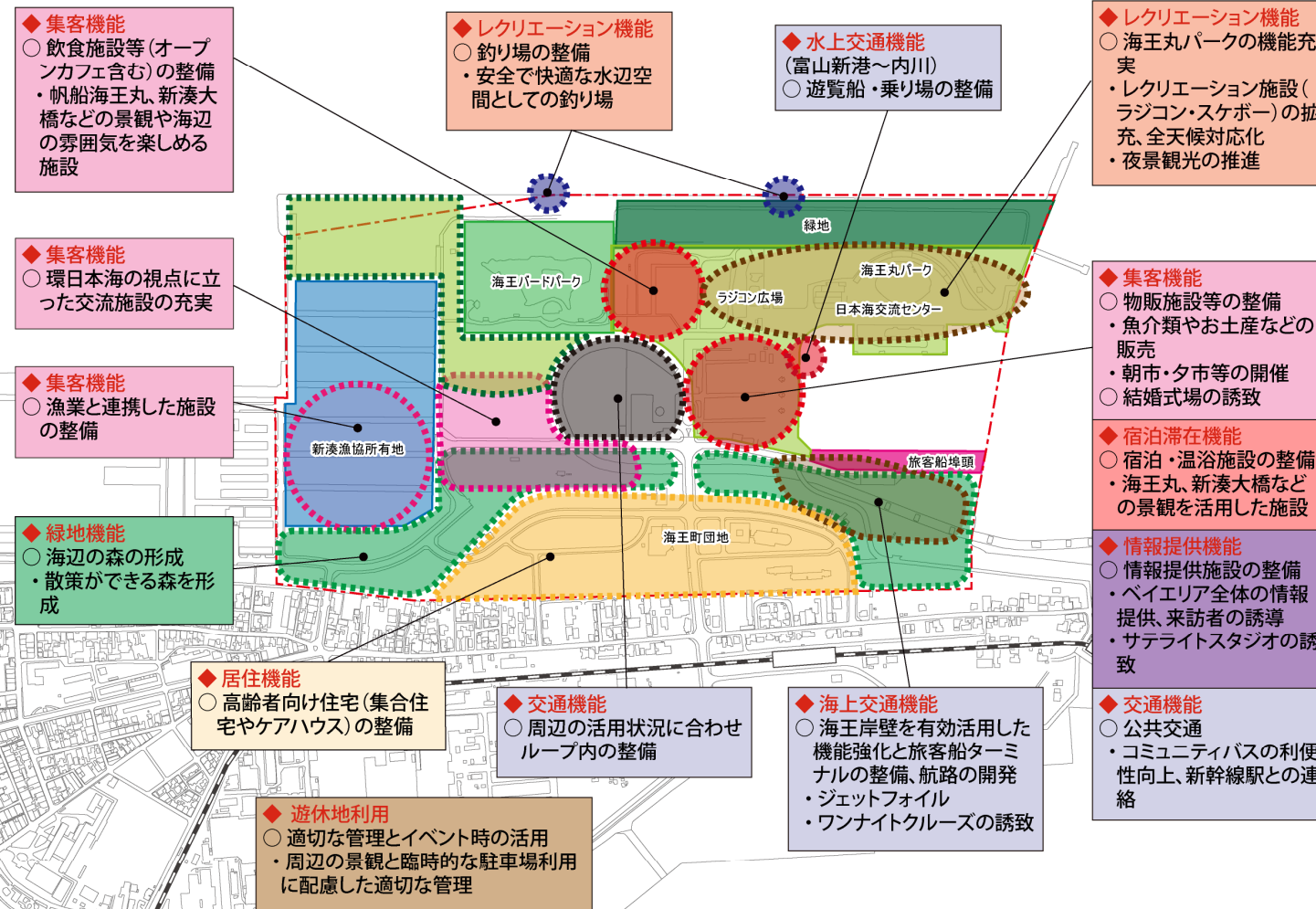
⑥ 学習機能（東西バイエリア地区）

- ・ 研究機関や周辺企業を学習の場として提供

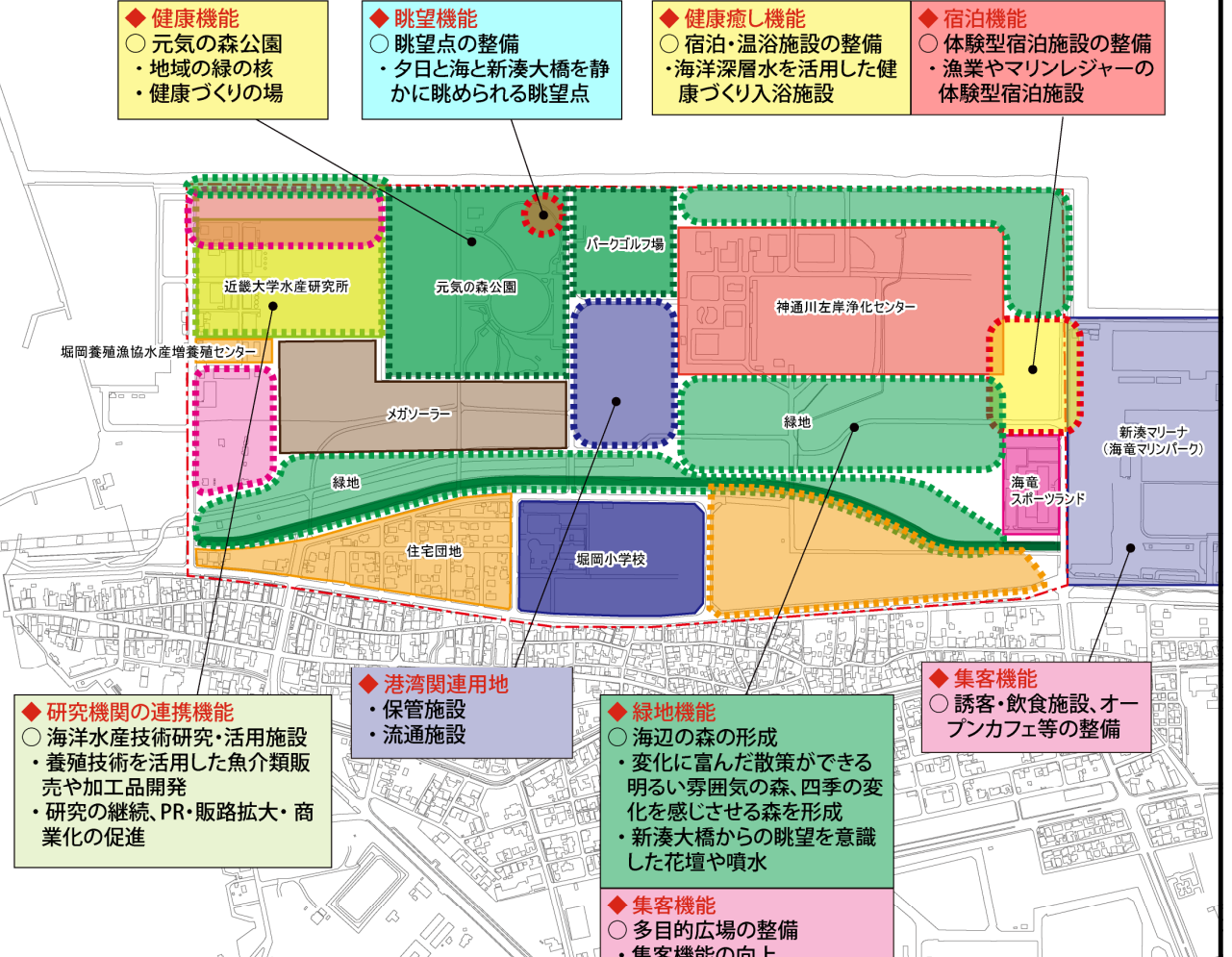
6 射水みなとまちづくり方策

ベイエリアの土地利用活用方策及びベイエリアと内川周辺との連携方策に基づき、射水みなとまちづくり方策について以下のとおり整理する。

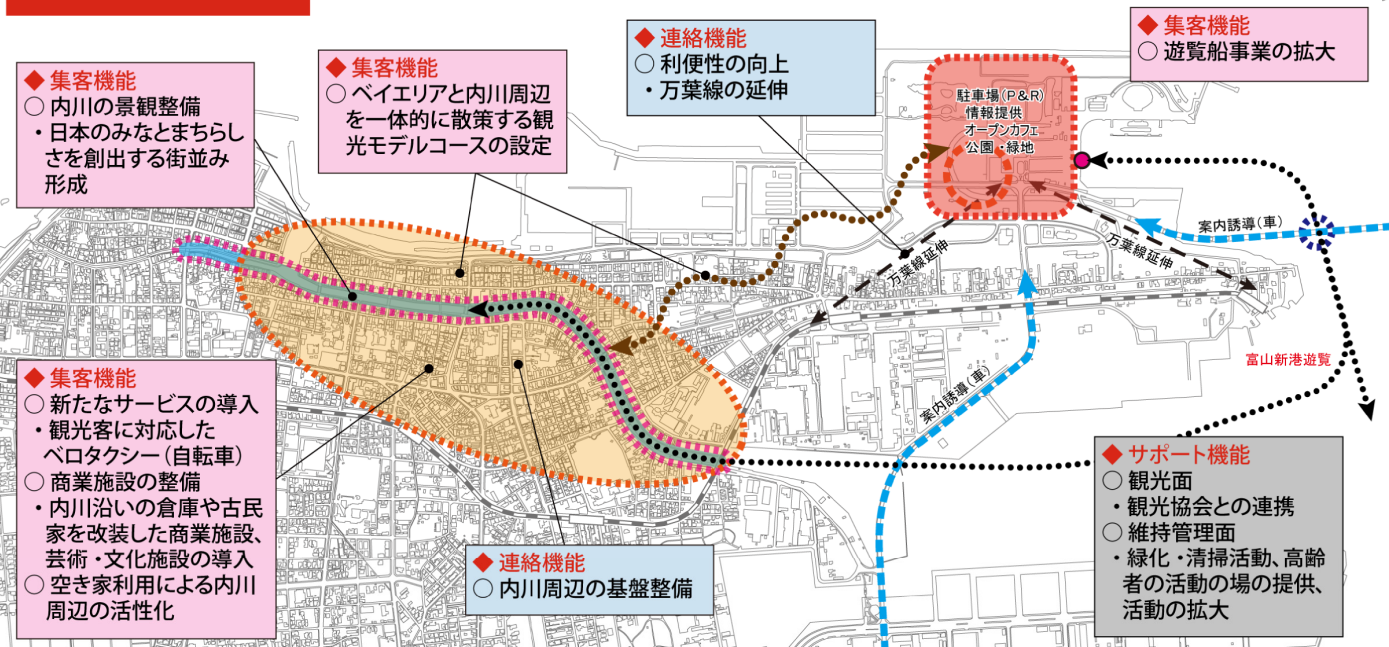
ベイエリア西地区：賑わいのある交流空間



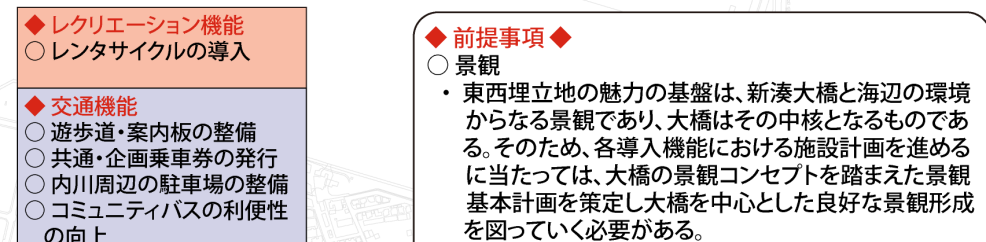
ベイエリア東地区：近未来を考えた高質空間と賑わいのある空間



内川周辺地区



新湊地区全域



0 200 600m



地区	導入機能	導入施設	概 要	今後の方向性＝骨子＝
ベ イ エ リ ア 西 地 区	交通機能	駐車場	・ 周辺の活用状況に合わせ内川周辺の代替駐車場として整備	● 周辺の活用状況に合わせループ内整備（交流厚生用地）
	水上交通機能	遊覧船・乗り場	・ 富山新港周辺及び内川周辺の水上交通としての機能を担う。	● 交通手段としての検討 ● ベイエリア～内川の観光船または海上タクシーを２次交通とする。
	交通機能	公共交通	・ コミュニティバスの利便性向上とともに、新幹線駅とも結ぶ。	● ニーズ調査行う。（新湊と堀岡・海老江結ぶ） ● 富山駅（北口）～ベイエリアの特急路線バスの定期運行
	海上交通機能	海王岸壁を活用した機能強化 と旅客船ターミナル・航路誘致	・ クルーズ船及び旅客船航路を誘致	● 和倉・奥能登・佐渡へのジェットフォイルや旅客船航路を誘致 ● ワンナイト等クルーズ誘致で実績づくり
	集客機能	物販施設	・ 来訪者に魚介類やお土産などを販売する施設。朝市・夕市等の開催	● 海王丸パーク施設連絡会・県と調整し、民間事業者進出を促す。 ● 魚市場見学通路の開設を機に、市場内で夕市など即売場を開設
	集客機能	飲食施設等 （オープンカフェ含む）	・ 団体観光客の立ち寄りにも対応した飲食サービスを提供する施設 ・ 帆船海王丸、新湊大橋などの景観や海辺の雰囲気を楽しめる施設 ・ 環日本海諸国の映画・演劇・生活・文化などを体験や料理・アルコールを提供する施設 ・ 環日本海の視点に立った展示・普及・研究及び対岸諸国や沿岸自治体を照会するなど日本海交流センターの展示を充実させる。	● 海王丸パーク施設連絡会・県と調整し、民間事業者進出を促す ● 総帆展帆の日を盛り上げる企画の推進 ● 環日本海諸国の料理・アルコールを提供する施設 ● 環日本海諸国の映画・演劇・生活・文化などを体験する施設 ● 環日本海の視点に立った展示・普及・研究及び対岸諸国や沿岸自治体との交流拠点
	集客機能	結婚式場	・ 結婚式場の誘致	● 結婚式場の誘致
	集客機能	施設相互利用	・ 海王丸と関連施設が協定結び相互利用促進	● 海王丸と関連施設が協定結び相互利用促進 ● 「夕べの集い」コンサート等の企画
	集客機能	漁業と連携した施設	・ 蓄養技術を活用した釣堀や新湊漁港に水揚げされる魚を紹介する施設	● 蓄養技術を活用した釣堀や新湊漁港に水揚げされる魚を紹介する水族館 ● 市場に見学通路ができたのでPRし、大いに利用してもらう。
	宿泊滞在機能	宿泊・温浴施設	・ 市域に不足している来訪者の宿泊滞在施設 ・ 海王丸、新湊大橋などの景観を活かした温浴施設	● 市域に不足している来訪者の宿泊滞在施設 ● 海王丸パーク施設連絡会・県と調整し、民間事業者進出を促す。
	情報提供機能	情報提供施設	・ ベイエリア全体の情報提供を行い、来訪者の誘導を行う。 ・ サテライトスタジオの誘致	● 地域放送局による情報発信 ● みなと交流館取得と有効活用 ● wi-fi 対応の検討
	居住機能	高齢者向け住宅	・ 高齢者を対象とした集合住宅やケアハウス ・ 今後も民間活力導入	● 民間で供給されており、今後も民間活力導入
	レクリエーション機能	緑地・公園	・ 憩いの空間となる緑地や公園を各所に配置	● 県の事業後の利用状況見ながら検討
	レクリエーション機能	釣り場	・ 安全で快適な水辺空間としての釣り場	● 安全で快適な水辺空間としての釣り場
	レクリエーション機能	海王丸パークの機能充実	・ レクリエーション施設（ラジコン・スケボー）拡充整備し、全天候対応化を図るとともに、夜景観光を推進する。	● レクリエーション施設に多目的広場を整備し、全天候対応化を図る ● ドッグランなど（東にもドックラン・PGを） ● イルミネーションの充実、夜景観光の推進
	遊休地利用	適切な管理とイベント時の活用	・ 周辺の景観と臨時的な駐車場利用に配慮した適切な管理の実施と市民による花壇整備などの活用	● 当面環境整備を行い、民間・県・住民と連携協力し利活用
	緑地機能	海辺の森形成	・ 地被－疎林－自然林といった変化にとんだ緑地を整備し、夕日を望む芝生広場と森林浴・散策ができる森を形成	● 地被－疎林－自然林といった変化にとんだ緑地を整備し、夕日を望む芝生広場と森林浴・散策ができる森を形成 ● バードパークは大切。周辺整備を（散策道路）（土盛りのところ）
	連絡機能	万葉線の延伸	・ ベイエリア西地区における万葉線の利便性向上を図る、路線の延伸	● ベイエリア西地区における万葉線の利便性向上を図る、路線の延伸

地区	導入機能	導入施設	概 要	今後の方向性＝骨子＝
エ リ ア 東 地 区	健康機能	元気の森公園の拡充	・地域の緑の核となる公園整備。市民の日常的な健康づくりに寄与	● パークゴルフ場の増設（18ホール） ● 緑化の推進（花を植える）
	健康癒し機能	宿泊・温浴施設	・海洋深層水を活用した健康づくりを行う入浴施設、海洋エステ、環日本海諸国の特徴あるマッサージやサウナなども検討	● 海洋深層水を活用した健康づくりを行う入浴施設、海洋エステなどの癒し施設（滑川市でタラソピア）
	健康癒し機能			● 環日本海諸国の特徴あるマッサージやサウナの体験施設（船員の利用を促す）
	健康機能	海を使った取り組み	・引き続き継続する	● 富山マラソンや射水海王丸マラソンの実施 ● 新湊大橋車道部のイベント活用（ウォーキング大会実施） ● 全国大会規模のヨットレース等の誘致
	研究機関との連携強化	海洋水産技術研究・活用施設	・養殖技術を活用した魚介類販売や加工品開発（稚魚のオーナー制度などによる活用）	● 研究を継続し、P R・販路拡大・商業化を目指す。 ● 都内にある富山・射水ゆかりの店にメニュー化
	集客機能	多目的広場など	・多目的広場、ドックラン、フットサル場として利用に変更（集客機能を持たせることに）	● 多目的広場、ドックラン、フットサル場として利用に変更（集客機能を持たせることに）
	緑地機能	海辺の森形成	・地被－疎林－自然林といった変化にとんだ緑地を整備し、良好な景観の緑地や散策ができる明るい雰囲気のある森、四季の変化を感じさせる森を形成。新湊大橋からの眺望を意識した花壇や噴水などによる癒しの空間を形成。	● 地被－疎林－自然林といった変化にとんだ緑地を整備し、良好な景観の緑地や散策ができる明るい雰囲気のある森、四季の変化を感じさせる森を形成。新湊大橋からの眺望を意識した花壇や噴水などによる癒しの空間を形成。
	眺望機能	眺望点	・夕日と海と新湊大橋を静かに眺められる眺望点の整備・P R	● あいの風プロムナードとともにP R
	宿泊機能	宿泊施設（体験型）	・漁業体験やマリンレジャーが楽しめる体験型宿泊施設（コテージ・別荘）	● ベイエリア西地区から移記
	集客機能	誘客・飲食施設 オープンカフェ	・マリンカフェ等による誘客・飲食施設（ベイエリア東地区にも宿泊施設・飲食店・物販施設など集客機能を持たせる）	● マリンカフェ等による誘客・飲食施設（ベイエリア東地区にも宿泊施設・飲食店・物販施設など集客機能を持たせる）

地区	導入機能	導入施設	概 要	今後の方向性＝骨子＝
内 川 周 辺	集客機能	内川の景観整備など	日本のみなとまちらしさを創出する街並み形成（「建築住民協定」の促進、防波堤を利用した自転車道、漁船・プレジャーボートのすみわけ）	- 日本のみなとまちらしさを創出する街並み形成整備内川の底浚いによる環境整備 - 富山県景観条例を活用した「景観づくり住民協定」の促進 - 板壁の修復 - 内川マリーナの整備（漁船・プレジャーボートのすみわけ） - 休憩施設の整備（勤労青少年H跡地）
	連絡機能	内川周辺基盤整備など	- 旧漁港の眺望P R - 内川周遊基盤整備（浮棧橋設置し周遊性確保）	- 旧漁港の眺望P R - 内川周遊基盤整備（浮棧橋設置し周遊性確保）
	集客機能	遊覧船事業の拡大	内川での遊覧船事業の拡大（ランチ・スイーツ・ディナー）	内川での遊覧船事業の拡大（ランチ・スイーツ・ディナー）
	集客機能	観光モデルコースの設定	まちなかの資源の掘り起こしやストーリーづくりによる観光モデルコースの設定と観光ボランティアの協力	- 新幹線開業による首都圏からの誘客、バイエリアと内川周辺を一体的に散策するモデルコースの充実 - ウォーキングモデルコース設定・看板・パンフ - 歴史を生かすストリートファニチャの設置 - 高周波鋼業のライトアップで海王丸・大橋・内川へ夜景でつなぐ（周辺企業のライトアップ） - 観光看板の設置
	集客機能	倉庫をリニューアルした商業施設など	内川沿いの倉庫や古民家を改装した商業施設、芸術・文化施設などの導入	- 民間の進出を期待。 - 有効な補助の検討
	集客機能	空き家利用による内川周辺の活性化	①賃貸店舗のあっせん ②短・中期滞在型賃貸ハウスのあっせん ③無料休憩所の設置 ④地場の魚を使った飲食店誘致	①賃貸店舗のあっせん ②短・中期滞在型賃貸ハウスのあっせん ③無料休憩所の設置 ④地場の魚を使った飲食店誘致
	集客機能	新たなサービス	観光客に対応したベロタクシー（自転車）など新たなサービスの提供	観光客に対応したベロタクシー（自転車）など新たなサービスの提供
	サポート機能	観光面	生涯学習と一体となった観光案内及び職人の技術活用や高齢者の経験・技術の活用など	観光協会と連携し、引き続き支援
	サポート機能	維持管理面	環境教育と一体となった緑化活動・清掃活動や高齢者の活動の場の提供	活動の拡大、個人やグループだけでなく地域の事業者の協力を得る。
全 域	レクリエーション機能	レンタサイクル	楽しみながらの移動を可能にするレンタサイクルの導入	- 新湊大橋と内川周辺を一体に捉えるため利便性の向上に努める。電動アシスト付など整備充実図る。 - バイエリアサイクリングコースの設定 - 波返しを利用した自転車専用道
	交通機能	遊歩道・案内板	- 街なかの資源を結び、休憩スポットを配置した、歩きたくなる遊歩道を整備 - 的確な誘導を行う案内標識を整備	- 街なかの資源を結び、休憩スポットを配置した、歩きたくなる遊歩道を整備 - 的確な誘導を行う案内標識を整備
	交通機能	内川周辺駐車場	自動車でのアクセス性を向上させる駐車場整備	- 休日の銀行駐車場利用 - 当面空き地を活用した小駐車場確保
	交通機能	共通・企画乗車券	多様な移動手段と市街地での食事を組み合わせた共通・企画乗車券の販売	ドラえもんトラムの集客力利用し、まちなかイベント実施
	交通機能	公共交通	コミュニティバスの利便性向上とともに、新幹線駅とも結ぶ。	コミバスのあり方・費用対効果を考慮改善図る。

7 方策の実現化に向けて

7-1 実現化に向けた考慮事項

射水みなとまちづくり方策の実現に向け、今後考慮すべき事項について、以下のとおり整理した。

(1) ソフト事業の展開

本方策に位置付けたハード整備は、あくまで舞台づくりであり、舞台に人が集まり舞台を有効に活用してこそ、まちの活性化につながることから、整備された施設や新湊固有の資源を最大限に活用したソフト事業を積極的に展開することが重要である。

例：既存イベントと新規イベントを組み合わせた通年的なイベント開催

大橋の眺望点を掲載したガイドマップなどによる情報発信

地域に愛着や誇りを持つ市民による情報発信

既存施設の積極的な利活用及び遊休地の活用策の公募

新湊の資源のブランド化による他地域との差別化

(2) 国際化への対応

本方策では、臨海部の土地利用活用方策の共通テーマとして「環日本海の中の射水」を掲げ、国内外の人・文化の結節点の形成を目指しており、その一環として外国人にもやさしいまちづくり（道路標識や案内板への外国語併記や絵文字（ピクトグラム）併記、外国語での情報発信）が求められている。

また、海竜町については、持続可能な資源循環型社会の実現に向けた環日本海における拠点形成を目指す上で、対岸諸国からの技術研修員の受入れを推進するなど、環日本海諸国との連携を推進することが必要である。

(3) 少子高齢化への対応

少子高齢化社会の到来を踏まえ、施設の整備に当たっては、バリアフリーに配慮するなど様々な人が使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）を採用するとともに、増加傾向にある高齢者の需要に合致した機能（施設）の配置が求められる。

一方、深刻な社会問題となっている少子化への対応として、子ども連れの来訪者が快適に過ごすことのできる機能配置についても配慮が必要である。

(4) 各種計画の策定

① 環境問題への対応

環境問題は行政、事業者、市民にとって避けて通ることのできない 21 世紀における最重要課題の 1 つである。従って今後の環境対策には、公害防止や自然環境の保護だけでなく、都市活動や社会経済のシステムを持続可能な資源循環型のシステムに転換していくことが求められる。

この様な社会情勢を踏まえ、本方策ではクリーンエネルギーの活用を始めとする様々な事業を提案している。今後はこれらの事業の実現に向け、市民や事業者と連携して環境基本計画を早期に策定し、環境にやさしい地域を構築していく必要がある。

② 景観の保全・形成への対応

本地域における集客資源の中核の一つは帆船海王丸、新湊大橋、立山連峰、内川などが織り成す美しい「景観」である。従って、今後方策を実現していく過程においては、新湊大橋の景観整備に係る方針（下記参照）を踏まえながら、射水ベイエリアを対象とした景観基本計画を早期に策定し、美しく個性ある景観を保全・形成していく必要がある。

特に、内川に代表されるみなとまち新湊の歴史ある風景についてはその保全に十分留意するとともに、新湊大橋の景観を最大限に活かし、ベイエリアの至る所から新湊大橋を眺めることができるような景観づくりを目指すことが重要である。

なお、計画の策定に当たっては、地域住民の意見を十分に踏まえ、住民の積極的な参加が得られる実効性のある計画にすることが求められる。

新湊大橋の景観整備に係る方針

【全体コンセプト】

ー伏木富山港の古き良き伝統を踏まえ、21 世紀の環日本海地域の新たな象徴、
交流と安らぎの場を創出する橋梁デザイナーー

【主橋梁部コンセプト】

海上に浮かぶ空中歩廊 ～海と風と歴史を感じる自転車歩行者道～

【アプローチ部コンセプト】

海風そよぐ交流の門 ～「まち」と「新たなウォーターフロント」をつなぐ～

③ 総合的な交通体系の確立

内川周辺には古くからの道路が残っているものの、その機能は現在の車社会に十分対応しているとは言えない状況である。一方、沿道には歴史的資源や個性ある街並みが点在しており、それらが新湊独特の景観を形成している現状がある。

従って、東西両埋立地を東西に結ぶ新湊大橋完成による交通機能の強化及び市内全域を網羅する公共交通機関（万葉線、コミュニティバス）や観光船（海王丸パークと内川を結んで運航）といった市内の交通機能を体系的に整理する交通マスタープランを策定し、総合的な交通体系の確立と街並み保存の両立について検討していく必要がある。

7-2 実現化の方針

(1) 住民参画の推進

射水みなとまちづくり方策を着実に実現していくためには、個々の事業の資金調達、整備計画、維持管理に至るあらゆる場面で、住民や各種コミュニティ団体による積極的な参画が不可欠である。

従って、直接住民の意見や考えを取り入れる広聴活動の充実及び整備資金の一部を広く住民から募る手法（ミニ公募債、出資金）を検討するなど、住民のまちづくりへの参画意識を高めるとともに、住民参画のための仕組みづくりを確立し、住民とともに方策の実現化を目指すことが求められる。また、実現化への第1歩として関係団体そして住民の参加による「射水みなとまちづくり戦略会議」において、それぞれの連携・協力体制を構築し、事業化の手法や事業主体、施設規模などについて詳細な検討を進める必要がある。

◇実現化の方針◇

- ◇ 住民と行政の協働
- ◇ 関係機関との連携・協力